

欧州編：

2008 年の旬？ルーマニア IT 関連市場

西欧、米国企業の事業拠点が東欧へと集まり始めている中、ルーマニアの注目度が高まっている。例えば、2008 年 1 月 15 日、世界最大手携帯電話端末メーカーの Nokia (フィンランド) が、ドイツにある携帯電話端末や車載電子機器の製造拠点をルーマニアに移転させる計画を発表。同社は、携帯電話端末の価格低下とドイツにおけるコストの高騰により、マージンが縮小される傾向にあり、手ごろなコストで事業を展開できるルーマニアに移転することを決定したとのこと。同社のお膝元フィンランドにおける携帯電話生産量は、8,500 万台。海外生産拠点で最も多いのは中国で 1 億 6,500 万台、その後にハンガリー、ブラジル(それぞれ 4,000 万台)、ドイツ(3,500 万台)、インド(2,500 万台)、メキシコ(2,000 万台)、韓国(1,500 万台)、台湾(1,000 万台)と続く(1 月 16 日付 Financial Times 紙)。こうした事業拠点の移転の背景には、低コストだけでなく、活気づくルーマニアの IT 関連市場もあるようだ。特にハードウェアでは、ルーマニアには、デスクトップ PC の組立工場があり(メーカー不明)、それが同国におけるデスクトップ PC 売上げに貢献しているとのこと。出荷地が市場に近いため、迅速に販売できるメリットがある(2008 年 1 月 10 日付 IDC 調査)。また、IDC が 2007 年 11 月 28 日付で発表した 2007 年第 3 四半期の PC 出荷台数は、約 19 万台で前年同期比 3 倍以上。消費者、中小企業、公共セクターを中心に需要が伸びており、やはり同国の組立工場とデスクトップ PC の成長の関連が指摘されている。